

開催日時：令和6年6月24日（月） 15時00分から16時10分まで

開催場所：A203-204会議室

出席者：佐藤市長、高田副市長、熊谷教育長、清水総務部長、林企画部長、小倉リニア推進部長、牧島リニア駅周辺整備担当参事、橋本市民協働環境部長、下井ゼロカーボンシティ担当参事、林福祉部長（福沢福祉課長代理出席）、山崎こども未来健康部長、市瀬産業経済部長、今産業経済部参事、井田建設部長、佐藤建設部参事、岡本危機管理部長、佐々木上下水道局長、齊藤市立病院事務局長、福岡会計管理者、筒井議会事務局長、秦野教育次長、佐々木財政課長、小室秘書課長、滝沢南信州広域連合事務局次長、澤柳企画課長

## 会議内容

### 1 理事者あいさつ

#### <市長>

- ・事業所としての飯田市の事業主行動計画について、「顧客満足度は従業員満足度から」であり、市が職員の働く環境は満足できるものか考えていかなければならない。
- ・長野県でも組織風土改革「かえるプロジェクト」に取り組んでおり、「信州自治」（信州自治研究会発行）には「今の長野県庁の状況は、集団皿回しのような状況だ。あたかも大道芸の皿回しのように自分の皿を落とさないよう集中するあまり、隣で困っている人がいても気が付かない。仮に気付いても自分の皿が落ちてしまうから助けにも行けない。有能な人にはどんどん皿が追加されている。これを集団でやっているような状況。これは多忙感を感じる人が多いという問題ではなく、職員の行動がそういう状態になっている。そう感じないようにするというのではなく、そう行動せずに済むようにするべきというのが課題であり、そのような問題意識からいろいろなことに取り組んでいる。」と掲載されている。
- ・今の飯田市役所も他の人の状況がなかなか見えづらく、見えていても助けに行けない、仕事ができる人には仕事が重なっていくという状況になっているかもしれない。
- ・行革本部を中心に業務の見直しに取り組んでいるが、単に業務プロセスを見直し効率化していくことやデジタル化のためだけに取り組む意識ではなく、集団皿回しのような状況を生み出さないよう、根本的な課題の解決に向けて一緒に考えていく必要がある。
- ・それぞれの職員が当事者意識を持ち、所掌している業務等を見直していくことで、市役所の働く環境をより良くしていく。

#### <教育長>

- ・7月7日から、いいだ人形劇フェスタのワッペンが販売される。協力をお願いします。
- ・「風越登山マラソン」は、今年度70回の記念大会を迎えるにあたり、大会名称を「風越山トレイルマラソン大会」に改め、10月14日に開催する。記念大会であるため、有名な方を招くことも企画している。承知していただき、協力をお願いします。

### 2 協議事項

#### (1) いいだ未来デザイン2028後期計画 素案 について

##### ◇趣旨

- ・持続可能な社会を創造するための4つの視点、基本目標の枠組み及び今後のスケジュールについて確認する。

##### ◇意見

（議会事務局長）

- ・いいだ未来デザインは、戦略バスケットだが縦軸と横軸の整理が分かりにくい。
- ・4つの視点があるが、狙い撃ちにするような課題は共有し、位置付けを検討する必要がある。具体的には、

「若い女性」という視点が抜けてしまうのではないか。

(企画課長)

- ・資料2-2に示しているとおおり、縦がバスケットであり、その中に基本目標を達成するための戦略が投げ込まれてくる。
- ・4つの視点は、資料では横に記載しているため横軸のように見えてしまうが、これはすべて7つの基本目標の枠組み案の中に視点として入ってくるもの。
- ・例えば「女性」の視点は、これから具体的に検討するそれぞれの基本目標のねらいに入ってきて、トータルで取り組んでいく要素となると考えられる。

(市長)

- ・現時点で7つの枠組みが確定している訳ではないため、女性若者という枠が必要となれば追加すればよい。
- ・これまでも、いくつもの基本目標にまたがるテーマがあり、再掲という形で出てきたものはあった。
- ・資料2-2中の中期計画の13の基本目標を振り分けているのは、あくまでイメージであり、このとおおり行くというものではないということによいか。

(企画部長)

- ・もともと中期計画の13の基本目標は、戦略的に考える柱として据えていたものである。後期計画の策定にあたり環境の変化を踏まえ、再度、人口ビジョンや8つのまちの姿から見た時に、人口の構造的な課題や女性若者という要素については、既に視点として含まれており、中期計画3カ年の振り返りの中で後期に取り組むべき方向性を整理しているため、基本的には後期計画のそれぞれの基本目標に入ってくると思う。
- ・どの課題を切り取って柱を組むかということであるため、女性というテーマを戦略的に柱として据えるべきという意見が出てくれば、検討したい。

(総務部長)

- ・後期計画はデジタル田園都市国家構想（以下、デジ田という）に対応できるようになっているのか。

(企画部長)

- ・基本的にはデジ田対応の総合戦略に対応できるようになっている。別に地域DX方針を検討しており、最終的には要素として入れつつ、デジ田の計画にしていきたいと考えている。

(リニア駅周辺整備担当参事)

- ・資料1-1に記載のある、基本的な考え方（案）は全ての基本目標に関わってくるものという捉えで良いか。特に②の考え方を教えてほしい。

(企画課長)

- ・①～③は全ての基本目標の枠組みに共通して関わってくるものである。
- ・②は、複数課題を同時に解決していく視点を持って戦略を検討していただきたいということ。

(市長)

- ・②の具体的な例は。

(企画調整係長)

- ・例えば、道路の整備をする際、建設部とすれば要望箇所や危険箇所を改良していくということだが、一方で通学路であれば子どもの視点で安全性を考慮して改良することが必要となり、高齢者も安全で使いやすい道路となる。結果的に、こどもも高齢者も自動車も安全に通行できるようになる。このように、一つの事業を複数の視点で見た場合に効果がそれぞれ出てくる。こういった見方で組み上げていただきたいというもの。
- ・①も同様に、4つの視点のバランスを見ながら基本目標を組み上げていただきたいというもの。③は、デジタル技術と記載しているが、そればかりではなく、社会変革を起こしていくという視点を持って組み上げましょうという意味である。

(市長)

- ・統合的アプローチはどのような意味で使っているのか。

(企画部長)

- SDGsの視点で捉えると、環境と経済のバランスをとり、環境に配慮した開発という両方の視点を押さえていくということがある。
- 一方で、例えば「こども主体」という枠組みでは、医療、福祉といった視点だけでなく、だれ一人取り残さない教育の視点も含まれるなど複層的に課題が絡んでいるものを一体的に考えていくことは必要である。
- 「誇りと愛着」の枠組みでも、自治、共生協働、こどもの誇りと愛着などを統合的に考えて同じ視点で取組を展開することで、より効果的な内容になると考える。

(市長)

- 相反するものに対して統合的に見た時に一番良い点はどこかを見る視点と、合わせることでより効果的になり相乗効果を生むという視点の2つの視点が必要である。
- 例えば、これまで基本目標の3～5は教育基本目標と全く同じ内容であったが、そこに他の視点を入れ統合的にやるということはある。

(教育次長)

- 社会教育は、まさに統合的アプローチであると考え。「誇りと愛着」や「自治を担う人づくり」は教育分野だけでなく統合的に取り組んだ方が高い効果が得られると考える。
- 一方で、戦略バスケットの形にするには縦割りではなくプロジェクト型の体制をとる必要があり、一緒に協議していく必要がある。

(企画部長)

- 環境や子育ての分野で行ったように、縦割りの組織では制約があって実行できない部分を戦略バスケットの形で政策的に実現することだと考える。
- 当初予定では、基本目標ごとの方向性を検討いただいた内容を各部長からお話いただこうと考えていたところであるが、時間が無くなってしまったため、マネジメントリーダー会議を開催し基本目標の枠組みについて検討していく。マネジメントリーダー以外の方は会議までに企画課へ意見をいただきたい。

◇協議結果

- 提案のとおり了承する。

### 3 その他、連絡事項

### 4 閉会